

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	新潟県中東福祉事務組合 フレンドポートふなおか			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 17日		～	令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 20日		～	令和7年 3月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	その日のお子様の様々な様子に対する対応力がある。	全スタッフの連携によりお子様の突発的な興味・関心への自発的な行動に柔軟に合わせて対応するようにしている。	お子様の興味・関心からの行動については安全を担保しながら制止せず、お子様のやる気を阻害せずもちまへの対応力に対応するようになることをねらいとする。それによりお子様は自立心や自己実現への学びを深め、成功体験の経験を積み重ねていくことで、支援員のサポートがなくても自立して様々なことに挑戦しスキルアップしていく姿勢が身に着くと考える。
2	特別支援学校がすぐ隣にあり、行き来がしやすい。学校とのやりとり・協力体制が相互に取りやすい。	先生方との児童の情報共有は常に行うことができている。学校のオープンスクールにも積極的に参加させていただいており、事業所以外のお子様の活動の様子などを見る機会を設けており、事業所での活動の参考にもしている。	今後も関係機関として情報共有を密にしていき、お子様のより良い支援に繋げていく。
3	他の事業として日中一時支援事業（学校登校日7:30～9:00）を実施している。	保護者様が就労時間を見直したり、環境を変えることなく今まで通りに就労してもらえよう、対応できる限りの児童を受け入れている。	安全第一に学校まで送り届けることを今後も意識して実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	近隣に公園・お店・などお子様の興味がある場所が少なく、あっても距離が遠い（キロメートル単位）	もともと運営組織の敷地が所有する場所に建築が始まり、社会資源の活用が第一の目的として考えになかった。利用するお子様の利用してきて成長とともにさまざまなニーズが徐々に始まってきた。	距離を利点にソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、公共交通機関の利用などで目的地までの距離を負担に感じない方法を学び、お子様が実際に使える自身のソーシャルスキルの獲得に繋げていく。
2	部屋数が3部屋（ホール1・相談室・事務所）と少ないので個別対応が難しくなることがある。（音や振動を遮断するように空間が分けられない）	10人定員の基準は満たしている建物であるが、お子様それぞれの成長と共に過ごし方、快適に思われる場所への選択に変化が出てきており、スペースはより大きいほうが良く、居室数もより多くあった方がより良いと感じるようになってきている。またお子様それぞれの発達活動効果も高くなるという一面もある。	部屋数を増やすことは現実的に難しいため、パーティションやカーテン等を使用して空間を分けられるように工夫していく。また一時の活動の場として運営母体と同じ隣接施設の空居室や空きスペースを活用させてもらったり、屋外（グラウンドや地域の公共の場）も支援活動の場として活用していく。
3	日中一時支援（日曜・祝日）に実施となると、対応した人員は平日に休む必要があり、他事業の運営に影響が大きく受け入れが難しい。	日曜・祝日に日中一時支援の需要があること。地域社会の障がい児童分野において当事業所の他に日曜・祝日の日中一時支援事業を提供している施設…またはそれに変わる社会資源がなく利用側にとっての選択肢が当事業所に限られている。	日中一時支援（日曜・祝日）の需要が以前～現在、またこれからも確実にあり、他の障がい福祉サービスで対応できない「繋ぎ」の部分を担う一面があるが、経営という点において他事業者が新規参入しにくい部分があるのも事実である。そこについては地域社会の反応を待つのか、事業者のさらなる工夫や努力が必要なのかは置いておいて、当事業所ができる部分とできない部分を区別し利用側と相談しながらも事業を継続していける道を今後に模索していく。